

○今回は、昨日（6/1）の引き渡し訓練での話を載せます

みなさんは、「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉を知っていますか。

天災というのは、台風や地震などの「自然災害」のことです。

意味は、「自然災害は、その恐ろしさを忘れた頃に再び起こるものなので、普段から油断せずに、備えなければならない」というものです。

私たちが一番身近で知っている大災害は、2011年3月11日の午後2：46に発生した東日本大震災ではないかと思います。

東北地方では、最大震度7を記録しました。この震災で亡くなられた方は約2万人、未だ行方不明の方も2000名以上います。

東日本大震災が起きたのは、今から12年以上前になります。皆さんは、1歳から3歳くらいでしたので、記憶にある人はいないと思いますが、甲府市でも震度5弱を記録しました。

震度5弱というと、

- ・大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる
- ・電灯などのつり下げている物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある
- ・固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある
- ・電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることとされています。

当時、私が勤めていた職場でも、棚にあった本や書類が床に落ちて散乱し、窓の外を見ると電柱や駐車してあった自動車が大きく揺れるのを目撃し、恐怖を覚えました。

甲府市の南側では大規模な停電も起き、電話がつながらない状態になりました。

小中学校では、集団下校をしたり、保護者の方に引き取りに来てもらうなどしましたが、甲府市内で一番遅かった学校では、全ての児童の引き取りが終わったのは地震発生から7時間近く経った夜9：30過ぎだったと聞いています。当時1～3歳と小さかった皆さんを抱えていた、ご家族の方は、さぞ、心配や不安を感じたことと思います。

この東日本大震災以後、甲府市では、震度5弱以上の地震が発生した場合は、生徒の皆さんを学校に留め置き、保護者の方に引き取りに来てもらうこととなりました。そして、そのための訓練が、こうやって、毎年6月に行われるようになりました。

ちょうど、先週末に、山梨県が発表した大規模地震の被害想定調査結果によれば、今後、30年以内に70～80%の確率で起きると言われている「南海トラフ地震」では、甲府市では、震度6強の揺れが起こるとされました。

震度6強というと、

- ・立っていることができず、這（は）わないと動くことができない。
- ・揺れの勢いで飛ばされることがある。
- ・固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- ・木造の建物は傾いたり、倒れるものが多くなる。
- ・大きな地割れが発生することがあるとされています。

ぜひ、訓練に参加する時には、「天災は忘れた頃にやってくる」「その天災に備えるための訓練なんだ」と思って、真剣に参加してください。

機会があれば、家族の人に、12年前の東日本大震災の時、どうだったか聞いてみてください。大きな災害を体験した人から話を聞くというの、災害に備えることになると思います。

## 震度とゆれの状況



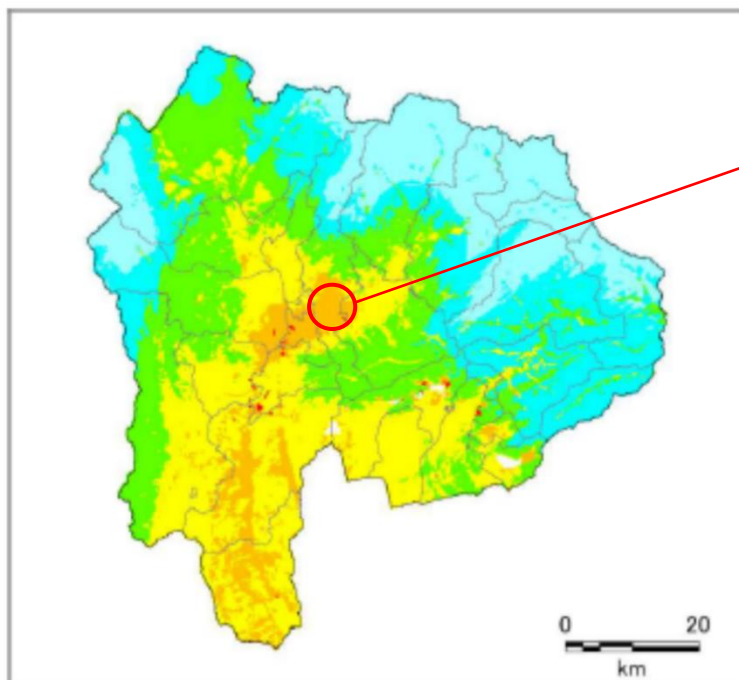
この表は、ある震度が観測された時に、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。

詳しい解説は以下の気象庁ホームページに掲載しています。

気象庁震度階級関連解説表 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/shindo/kaisetsu.html>

今後起きるとされる南海トラフ地震の際の甲府の予想震度です

## 南海トラフ地震発生時の震度予想



西中学区は この辺りです →「震度6強」

震度階級  
 7  
 6強  
 6弱  
 5強  
 5弱  
 4以下

0 20  
km

(a) 震度 (山梨県全域)